

日本の「民主主義」 スウェーデンの「民主主義」

明治大学国際日本学部国際日本学科4年 鈴木ゼミ
西山由夏・水澤芽生



投票率



52.7%




87.2%



選挙に行かない理由

- ・ 予定があった、忙しい、面倒くさい
- ・ 投票したい候補者や政党がない
- ・ 選挙や政治に興味がない、よく分からない
- ・ 投票する意味がない／しても変わらない

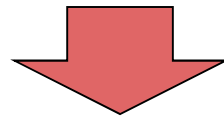
2019年7月29日LINEの全国18～69歳を対象に実施した「第25回参議院議員選挙に関する調査」の結果より
<https://ascii.jp/elem/000/001/905/1905502/>



日本は民主主義の国

民主主義：人々が自分から政治に参加し、
話し合って物事を決めていくという考え方

『新編 新しい社会 6 上』東京書籍,p123



この民主主義に基づいて選挙は行われている



私たちには

「政治に参加し、物事を決める権利がある」の
に、

「政治に参加しても無駄だ」と思っている

なぜ？


「民主主義」



仮説

「自分が政治に参加しても、何も変わらない」
と思っている人が多いのは、

日本とスウェーデンの民主主義的な意識の違い
が影響しているのではないか



目次

1. 民主主義的な意識の違い
2. 日本とスウェーデンで民主主義的な意識の違いが
生まれるのはなぜか
3. まとめ

第一部

民主主義的な意識の違い



【例】 こんな校則は嫌だ！！

鈴木中学校には指定の制服がありますが、
校則でカーディガンの色が、白、黒、紺
の三色のいずれかと指定されています。

鈴木中学校に通うAさんは、
オレンジ色のカーディガンが着たいと思っていました。
しかし校則では、オレンジ色のカーディガンを着ることはできません。
この時、Aさんがとる行動は・・・・・・・・



A. 校則を守る

(校則だから仕方ないと、オレンジ色のカーディガンはあきらめる)

B. 校則を破る

(何色のカーディガンを着ても自由でしょ！と先生に反抗し、オレンジ色のカーディガンを着る)

もしスウェーデンで同じ状況になったら…

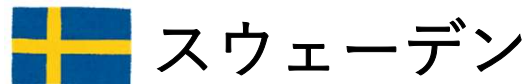
C. 校則を変える



日本とスウェーデンの違い



選択肢A+B → 自分の意見を持ち、発信する



選択肢A+B → 自分の意見を持ち、発信する

選択肢C → 自分の意見でルールを変えることができる

民主主義的な意識の違い

自分の意見を持ち、それを発信することができる

+

自分の意見でルールを変えることができる

第二部

日本とスウェーデンで
民主主義的な意識の違いが生まれるのはなぜか



小学校の教育



スウェーデンの 小学校社会科の 教科書を読む

日本の大学生は何を感じたのか

ヨーラン・スバネリッド 鈴木賢志+明治大学国際日本学部鈴木ゼミ 編訳




投票率85.8%の国では、
小学生に何を教えているのか

スウェーデンの社会科の教科書に書かれてある内容、
あなたの感想は？

新評論

①ルールは変わる

〈スウェーデンでは…〉

- 「法律や規則は変わる」 「すべての社会は変化します」
(p.8-10)
 - 100年前の規則や法律が今も正しいとは限らない
- 

「たとえば、髪型やファッションを変えて規範を打ち破ってやろうとするなら、それを何度も繰り返しているうちに、それでいいのではないかと思われるようになるかもしれません。」 (p.10)



髪型やファッションを変えて、規範を打ち破る
Illustrations by Carolina Ståhlberg © Carolina Ståhlberg
(著作権代理：株式会社フランス著作権事務所)


①ルールは変わる

〈日本では…〉

〔第三学年及び第四学年〕
約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること

〔第五学年及び第六学年〕
法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと

永田繁雄『平成28年度小学校新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編 P72 ~12 規則の尊重~』（2017年1月 明治図書出版株式会社）



スウェーデン 

- ルールは変わる(間違っているかもしれないから)

日本 

- ルールは変わる、という意識はあまりない

②ルールは自分たちで決めたり、変えることができる

〈スウェーデンでは…〉

・生徒

「すべての生徒は、生活に関する規則について話し合い、決定することなどができるのです。」 (p.69-70)

生徒の意見→個人の進路やいじめだけでなく
集団に影響を与えるような意見

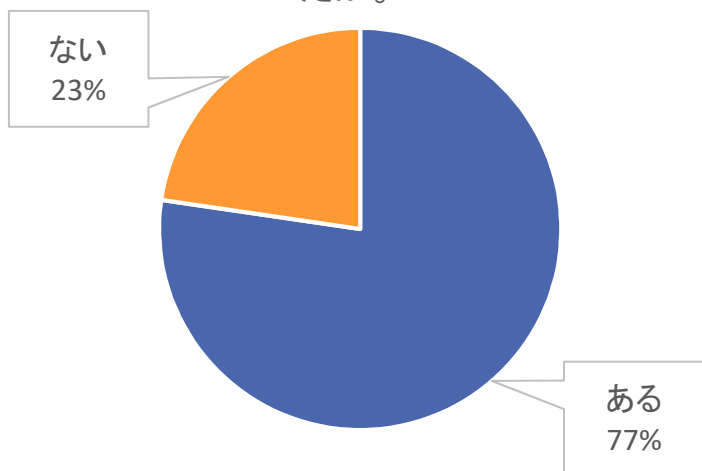
・先生

「今の学校では、生徒の意見を聞き、彼らと話し合い、彼らにかかわる決定に影響を与えるのが先生や職員の仕事となっています。」 (p.69)

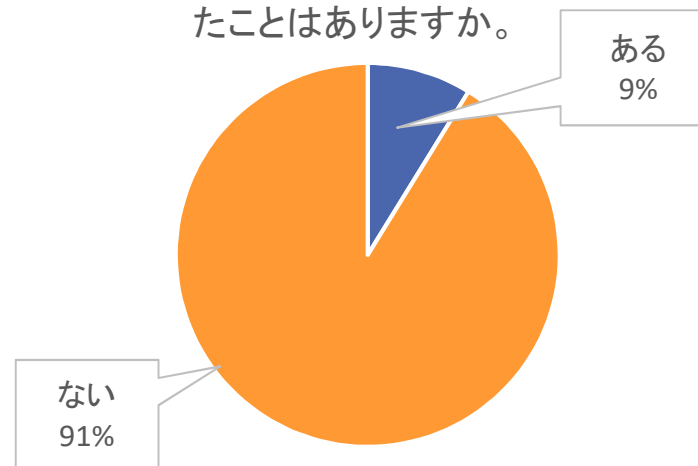
②ルールは自分たちで決めたり、変えることができる

〈日本では・・・〉

あなたは小学校から高校までの期間に、不満を感じる学校のルールや校則がありましたか。




(「ある」と答えた方へ) その不満に対して、ルールを変えるための行動を起こしたことはありますか。



②ルールは自分たちで決めたり、変えることができる

Q. なぜ行動を起こさなかったのか、理由を教えてください

- ・ 行動を起こしたところで、何も変わらない、意味がないと思ったから
 - ・ ルールは従うべきものだと思っていた、嫌でも我慢するのが当たり前
 - ・ 周りもやっていなかったから自分もやらなかった
 - ・ 先生に怒られたくないから
 - ・ 先生からの自分に対する評価を気にして。内申点などに影響するかもしれないから
 - ・ めんどくさいから
- 

スウェーデン


- ルールは自分たちで決めたり、変えることができる

日本

- ルールは守るもの、破ったら怒られる


③ 「ルールを変える」を実践する

〈スウェーデンでは…〉

- ・ 「学校における決定に影響を与えることができるというのは大切なことです。そこで生徒たちは、民主制の機能の仕方を理解するのです。」 (p.70)
 - ・ 「学級会では民主制の練習をすることができます。」 (p.70)
 - ・ ルールを決めたり、変えることができるという権利は、民主主義の大事な要素であったことを理解しながら、学校の中でそれを練習する
- 

③ 「ルールを変える」を実践する

〈日本では…〉

- ・ 日本の学級会の内容
 - ・ クラスのレク決め
 - ・ 修学旅行の班決め
 - ・ クラス目標の設定 など…
 - 「ルールを変える」といった内容の話し合いは少ない
 - ・ 学級会 ≠ 民主制の練習
- 

スウェーデン

- 「民主主義」の仕組みや、自分たちが持っている権利を、学校で練習しながら理解する

日本

- 「民主主義」を意識して話し合いをする場面が少ない

スウェーデン

①ルールは変わる

②ルールは自分たちで決めたり、変えることができる

③「民主主義」の仕組みを学校で練習しながら理解する

日本

①ルールは変わるという意識はない

②ルールは守るもの、破ったら怒られる

③「民主主義」を意識して話し合いをする場面が少ない

民主主義的な意識の違い

自分の意見を持ち、それを発信することができる

+

自分の意見でルールを変えることができる


まとめ



仮説

「自分が政治に参加しても、何も変わらない」
と思っている人が多いのは、

日本とスウェーデンの民主主義的な意識の違い
が影響しているのではないか



民主主義的な意識の違い

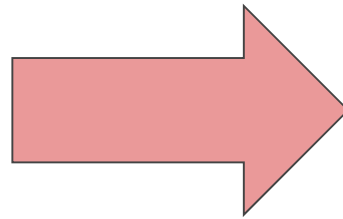
自分の意見を持ち、それを発信することができる

+

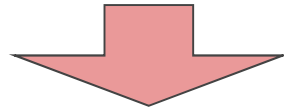
自分の意見でルールを変えることができる



小学校で理解した「民主主義」が
政治参加においても機能する



「自分が政治に参加しても、
何も変わらないのではないか」




自分の意見で物事を
「変えることができる」と思っていないし、
「変えた」経験も少ないから、
自分が政治に参加しても何も変わらないと思ってしまう

選挙に行かない理由

- ・ 予定があった、忙しい、面倒くさい
- ・ 投票したい候補者や政党がない
- ・ 選挙や政治に興味がない、よく分からない
- ・ 投票する意味がない／しても変わらない

2019年7月29日LINEの全国18～69歳を対象に実施した「第25回参议院議員選挙に関する調査」の結果より
<https://ascii.jp/elem/000/001/905/1905502/>



参考文献

- ヨーラン・スバネリッド. 鈴木賢志編 (2016) 『スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む: 日本の大学生は何を感じたのか』新評論.
- 永田繁雄 (2016) 『平成28年版 小学校新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編』明治図書出版.
- 明治大学国際日本学部 鈴木研究室「国際日本データランキング」,
〈<http://www.dataranking.com/table.cgi?LG=j&RG=3&CO=Japan&GE=pg&TP=&TM=>〉
- 「2019年7月29日LINEの全国18～69歳を対象に実施した『第25回参議院議員選挙に関する調査』の結果より」, 〈<https://ascii.jp/elem/000/001/905/1905502/>〉
- 『新編 新しい社会 6上』東京書籍

学校の校則やルールに関するアンケート調査

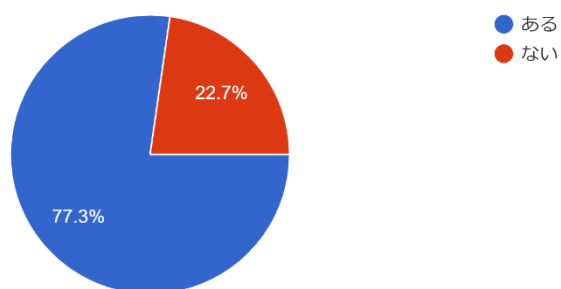
実施日：2020年1月16日～2020年1月20日

対象：20代

回答者数：44名

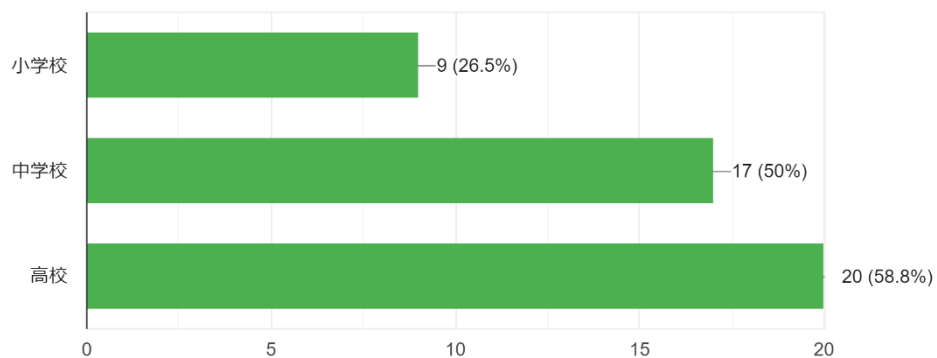
Q1. あなたは小学校から高校までの期間に、不満を感じる学校のルールや校則がありましたか。

44件の回答

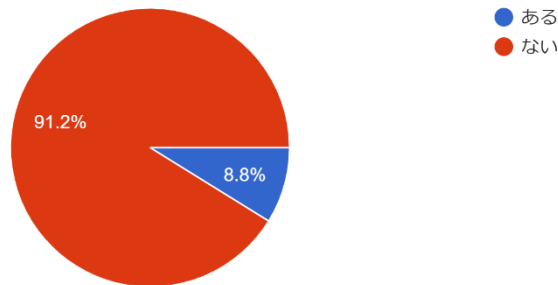


Q2. (Q1で「ある」と答えた方へ) それはいつ頃ですか。

34件の回答



Q3. (Q1で「ある」と答えた方へ) その不満に...を変えるための行動を起こしたことはありますか。
34件の回答



Q4. (Q3で「ある」と答えた方へ) 具体的にどのような事柄に対して、どのような行動を起こしましたか。(行動の例：署名運動に参加した、クラスで話し合いをした等)

- クラス会で提案したり、先生に直談判したり
- 他の先生に、禁止されているものの必要性を訴えた。また、寒くて必要だと思ったから注意されても辞めずに、着続けた。
- 冬の体育でジャージを羽織ってはいけないという校則に対して、生徒会から校長に直訴した
- 携帯禁止、夏のワイシャツ着用、自転車通学のヘルメット着用、二台に必ず荷物をくくりつける

Q5. (Q3で「ない」と答えた方へ) なぜ行動を起こさなかったのか、理由を教えてください。

- 決められたことだから
- 具体的に何をすればいいのかわからなかった
- 校則を理不尽とは感じていたが、社会勉強の一貫であると思い耐えました。
- そこまで不満に感じていなかった
- 個人的な意見でしかなかったから
- 行動を起こすことを思いつかなかった
- めんどくさかったので
- 注意してくる先生に限られていたから、その先生の近くでだけちゃんとしておけば良かったから

- どうしたらルールを変えられるか先生に相談したら、そもそも話を聞いてもらえなかったから
- 嫌でも我慢するのが当たり前だと思っていたから
- めんどくさいから
- 怒られなくなかったから
- 起こしても変わらなそうだから
- 従うことが正しいと思っていた。そんな勇気もない。
- 不満と思うルールはなかった。
- 例えルールを破っても怒られなかった
- 起こしたところで、変化しないと思ったため。
- そこまで大きなことではないから
- 効果をなさないと考えたから
- 自分が行動したところで、何も変わらないと思ったから。
- あまり好ましく受け入れられないルールがあっても、諦めていたから。不満に思うほどでもなかったから。
- 行動を起こしても無駄だと思ったから。
- 言っても意味がない
- 先生が怖かった
- そういう風潮がなかったので周りに流されて
- 面倒、内申点
- 面倒だから、変わらないと思ったから
- 起こす勇気がなかったから
- 行動を起こしても変化が期待できなかったから
- めんどくさかった

Q6. 学校のルールや校則に関して、何か感じることがあれば自由に記述してください。

- 教育のためには良いと思いますが、縛り過ぎも良くないと思います。
- 今考えると、なんであのようなルールがあったのか理解できないものが多い。物や服装の便利さや実用性よりも、統一すること、皆同じに揃えることを重視して作られたルール、規則だったと思う。
- その規則に果たしてどんな意味があるのか疑問に思う
- 校則を設けるのなら、とにかく徹底して浸透させた方がいいと思う
- 規則の中で生活する経験もある程度必要だと思う
- 存在する理由が特になかったりわからなかったりするようなルールで縛り付けら

れるのは嫌だなあと思います

- 社会人として働いた経験のない教師が、生徒に社会へと導くために指導しているのは皮肉なことだと思った。
- 受験校を選ぶ前に、ルールや校則を受験生やその保護者に公開するべきだと感じます。私が通っていた中高では、ルールや校則を破るとそれらの重さの程度に応じて反省文を書く必要があります（例：カンニング-10枚、飲酒・喫煙-100枚など厳密には公表されてないですが、こんな感じです）。書き終わるまで授業に出席できません。ルールや校則は学校によって異なると思いますし、もし私がこれらのルールを事前に知っていたら入学しなかったかもしれません。志望校選びで重要になってくると思います。
- 校則の趣旨を説明する機会があるとしたとき、保護者や生徒が納得できないような趣旨のような校則は、必要ないのではないかな。
- 学校で学んだこと（ここでの“学んだ”とは学問のことではなく、社会で生きていくための力全般をつけるということ）がその人の糧になっているかどうかというのは、長期的な眼で見ないと分からないことだと思います。つまり、学生時代にルールや規則に不満を持っていたとしても、年を重ねることでそれらに納得ができるかもしれないし、その逆、つまり学生時代にはルールや規則に納得していたものの、成熟してからそれらに関して疑問を持つということもありうると思います。最近私は、その場その場で思ったことに対し、すぐさま行動を起こすことが自分にとって本当に良いことなのか、ということ、常に疑問を持つよう心がけるようになりました。
- 当時はわりと受け入れていたけど、今思うと非論理的なルールも多く、個性が殺されているというのも分からなくない。
- 自由を縛りすぎ。校則がダイバーシティを阻害している。
- 理由を教えてもらえれば納得できたりするので、その共有が必要だと思います。
- もっと自由に生きれる世の中だといいな～と思います
- 学校ごとなのだから自由だと思う。でも、もっと公開しておくべき。それを見て生徒は入ってくるんだから。
- 極端に指定された髪の色や長さなど個性を潰すと思います！
- いない
- 高校に比べ中学は無意味なルールが多いと思う
- 硬すぎる。髪の色等は多様でいいと思う。一重がコンプレックスで二重にするために化粧をするのを悪だとは思えない。